

トビイロシワアリによるキャベツの被害

河合 章 (野菜・茶業試験場久留米支場)

Akira KAWAI : Damage by *Tetramorium caespitum* (LINNE) to Cabbage

トビイロシワアリ *Tetramorium caespitum* (LINNE) はダイコンや菜類の種子あるいはナスの幼苗の茎 (寺西, 1929), 草の実の一部や発芽直後の芽 (久保田ら, 1966), 草の実や種子 (青木, 1983) 等の植物質も食べることが報告されているが, 本種による作物の被害に関する詳細な報告はない。筆者は本種によるキャベツの被害を野菜試験場久留米支場内で確認したので, その調査結果を報告する。報告にあたり, 本種を同定していただき, あわせて文献を御教示していただいた九州大学農学部の村上陽三助教授に厚くお礼申し上げる。

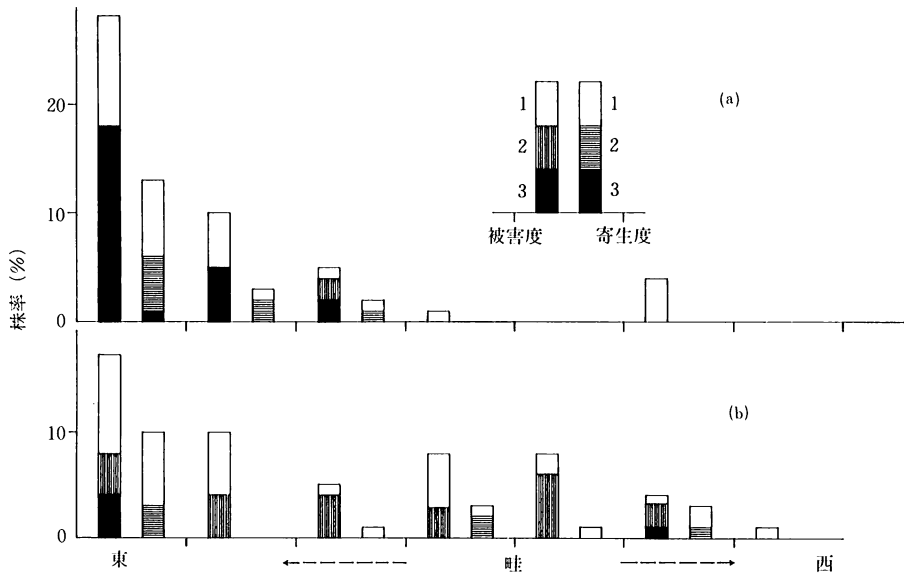
被害圃場は野菜試験場久留米支場内のキャベツを8年(年2作)連作した圃場で, 1985年10月14日に定植した品種「金系201号」および次作の1986年4月21日に定植した品種「輝」で発生した。両作とも定植直後から地際部に本種の寄生が見られた。被害株は地際部の表皮および一次皮層が食害され, 食害が内皮の内側の木化した部分に及んだものは見られなかった。被害の激しい株では表皮および一次皮層が環状に食害され, 枯死した。

1985年10月定植の作の定植26日後(寄生数は定植19日後)および1986年4月定植の作の定植17日後の畦別の被

害株率および寄生株率を第1図に示した。枯死した株を「被害度3」, 食害が環状になっている株を「被害度2」, 食害が地際部の一部の株を「被害度1」とした。なお, 「被害度2」の株は後にすべて枯死した。両作とも被害株および寄生株は圃場の東側の畦に多く, この傾向は1985年10月定植の作で強くみられた。1985年10月定植の作では最も被害の大きかった畦で枯死株率18%, 被害株率26%であり, 1986年4月定植の作では最も被害の大きかった畦で枯死株率12%(以後の枯死も含む), 被害株率17%であった。被害の見られた圃場の東隣にはビニルハウスがありキュウリまたはナスが植えられていたが, 被害は見られなかった。なお, 両作とも調査後にダイアジノン乳剤1,000倍液を灌注したところ, 以後の寄生はみられなかった。

引用文献

- 1) 青木淳一: 土壤動物学, pp. 814. 北隆館, 東京, 1973.
- 2) 久保田政雄・近藤正樹・今井弘民: 植物防疫, 20, 396-400, 1966.
- 3) 寺西 暢: 動雑, 41, 239-251, 1929.



(a) 1985年10月14日定植, 定植26日後, (b) 1986年4月21日定植, 定植17日後

第1図 トビイロシワアリによるキャベツの被害株率および寄生株率